

2019 年度日本活断層学会論文賞

受賞者：鈴木康弘・渡辺満久・中田 高

対象論文：2016 年熊本地震における益城町市街地の地震断層—変動地形学的意義と 建物被害への影響，活断層研究，48，pp.13-34.

授賞理由：

本論文は、2016 年熊本地震で大きな被害が生じた益城町市街地に出現した地表地震断層について、ずれを確認することができた地点の記録を都市計画図上に詳細にとどめ、地表地震断層と活断層、および建物被害との関係について考察したものである。地表地震断層の観察結果は写真入りで詳細に記されており、検証可能な基礎データとしての価値が高いことに加え、市街地の調査のあり方を示した成果としても評価される。丁寧な観察と分析を通じて、この地表地震断層は 2 条や 3 条に分かれながら益城町堂園から約 5km にわたり明瞭に連続しており、撓曲変形の基部に出現している場合と離れて現れている場合があるという地形学的にも意義深い成果を示した。さらに、建物被害との関係では、地表地震断層に 10 cm を超えるずれ量が確認された場所では、建物の建設年代に関わらず一般家屋に大きな被害が生じることを示した。これらは、活断層の位置形状を明らかにすることにより、その活断層が活動した時に生ずる被害を予測することにつながる。本論文は、今後の活断層研究の意義・見方を広げた点において、学術的にも意義深いものであると評価されるため、日本活断層学会論文賞にふさわしいと判断した。